

第1期一宮町総合戦略評価書：個票4
一宮版サーフォノミクス5つの柱

④子育て支援と個性ある教育の推進

総合定性評価	C
--------	---

総合定量評価	D
--------	---

基準日：令和3年3月31日

取り組み策	総合戦略策定時の取組予定内容	取組み結果	定性評価	重要業績評価指標 (KPI)					
				評価指標	計画時現状値	計画策定時目標値 (H31)	再目標値	実績値 (R3)	定量評価 (R3)
①地域子育て支援拠点の設置	子育て中の親子が集える場所を提供し、子育ての悩みや課題を抱える人たちのサポートを行います。		B	地域子育て支援拠点施設利用人数 子育てママフェスセミナー等子育て関連行事の年間開催回数	1,068人	4,680人	3,000人	239人 (その他各施設で個別に実施)	D
②子育てマップの作成	子育て世帯の不安の軽減や利便性向上のため、子育て世帯に必要な情報が書き込まれたマップを作成し、スマートフォン等で簡単に閲覧できるようにします。	・地域子育て支援拠点の設置として、保育園に入所していない親子が集える場所として、町内4保育士施設において実施しています。	B						
③子育てコミュニティの支援	子育て中のお母さんが育児不安や孤独感を感じないよう、遊びや情報交換を通して交流を行っている子育てコミュニティの組織を支援します。	・子育てマップの作成では、平成27年度子育て支援サイト作成しました。子育ての為の情報等を発信し、好評を得ていましたが、千葉県にて『チーパス・スマイル』が開設されたことにより、類似点が多い町のサイトは令和2年度を以って閉鎖しました。	B						
④保育料第3子無償化の実施	現在の保育料は、同時入所している場合に限る、第2子は半額、第3子は無償としていますが、同時入所していない第3子の無償化を新たに実施することで、保護者の経済的負担を軽減し、世帯における出生数の増加を図ります。	・子育てコミュニティの支援は、平成27年度に『ママによるワークショップフェスタ』を開催しました。様々な資格を持ったママたちが体験型ワークショップを行い、一宮町内外のママさんが集まり交流を深めました。	A						
⑤結婚相談所の設置	結婚支援サービスを行うために官民協力のもと相談所を設置し、婚活パーティーなどの婚活支援と合わせて町の情報提供を行い、成婚数を増やすだけでなく本町への定住者や出生数の増加を図ります。	・保育料第3子無償化の実施では、保育料無償化に向け検討していましたが、国の方針で令和元年10月より、3歳から5歳児は無償化になりました。保育料は無償化になりましたが、副食費(おかず・おやつ代)は家計の負担となることから、町の独自軽減策として、第3子以降のお子さんを年齢制限なしで、無償化にしました。	D						
⑥産科医・助産院の整備促進(広域連携)	不足している産科医・助産師を地域内に安定的に確保していくため、長生郡市内に新たに開業する事業主に対し、土地や建物取得、医療設備機材について助成制度を推進します。	・子育て応援商品券発行事業・幼児向け絵本(約5,000冊)を所持しているうちのみや保育所で一宮町内在住の小学校入学前のお子さんに対し「絵本作家どいかや先生」絵本教室を実施。	D						
⑦既存公共施設を活かした児童館機能の充実	本町には児童館がないため、中央公民館や公立保育所の施設を活用し、児童館としての機能を高め、地域の子育て環境づくりや児童の居場所づくりを推進します。	・ICTを活用した地方創生特別教育(千葉工業大学と連携し、ロボットプログラミング事業(H27~継続中))	A						
⑧ICTを活用した一宮町独自の教育	先端的教育手法を活用した本町独自の教育カリキュラムを実施し、教育の効率化、児童の学習意欲の増加を図ります。	・町内の歴史的建造物の調査研究を進め、平成29年に町内の3件8棟の歴史的建造物が、国登録有形文化財に登録されました。これらの建物はいずれもカフェや店舗として活用されています。	A						
⑨十二社祭り・宮難行燈まつり等の祭事の賑わい創出	本町で1200年続く十二社祭りや幻想的で本町らしさを映し出す宮難行燈まつり等を中心とした伝統的な祭事への参加を促し、多世代交流を通して住民の地域への愛着度を高めます。	・大人も子どもも楽しめる観光地曳網体験の実施。	B						
⑩茶あびの合同開催	町が一体となって子育てに取り組むために、子どもを受け入れるための行事として本町に長く伝わっている茶あびを、町が主催し、より多くの参加者を募り、地域と子育て世帯の交流を図ります。		D						
⑪伝統的旧家の保護、活用	本町の中心市街地は古くから商家が集積するエリアであり、現在でも築100年を越える建築物が残っています。これらの建築物を残すことで、本町の歴史ある文化を継承し、後世に伝える象徴として活用していきます。		B						
⑫自然との触れ合い	本町はサーフィンだけでなく、地曳網や農業体験等といった海と山の自然や文化を同時に体験することができ、これらの自然との触れ合いを継承し、本町独自の子育てを進めていきます。また、子どもたちが自然環境の中でも安全に遊べる公園を整備します。		C						

評価の四段階の目安
A：計画以上に進捗しており、継続して推進する
B：ほぼ計画通り進捗しており、このまま継続して推進する
C：目標をやや下回る見込みであり、要因の分析と見直しの可否を検討する
D：目標を大きく下回る見込みであり、要因の分析と見直しを要する

定量評価の四段階の目安
A：達成済みもしくは順調であれば達成する可能性が高い。(達成率80%以上)
B：最終的に達成するか不明であるが、順調に数値としての成果が上がってきている。(達成率50%~80%)
C：目標年次のデータは未確定であるものの、このままだと達成する見込みが薄い。(達成率50%未満)
D：目標年次の目標値に対して未達成である。